

クラス番号	612	担当教員名	大谷 京子
テーマ	ソーシャルワーカーのスキルを学ぶ		
著書・論文 研究課題等	<p>「精神科ソーシャルワーカーの実態—ベテランPSWのインタビュー調査より—」『精神保健福祉』38(4), 397-405. 2007.</p> <p>「精神保健福祉領域におけるソーシャルワーカー—クライアント関係に関する実証研究—「ソーシャルワーカーの自己規定」, 「対象者観」, 「関係性」概念を用いて—」『社会福祉学』51(3), 31-43.2010.</p> <p>『ソーシャルワーク関係—ソーシャルワーカーと精神障害当事者—』相川書房, 2012.</p> <p>大谷京子(2014)「ソーシャルワークアセスメントスキル—面接ロールプレイを用いた質的分析—」『ソーシャルワーク研究』40(3),48-57.</p> <p>大谷京子(2015)「アセスメント面接に対するクライアント評価の探求—面接ロールプレイ分析—」『精神保健福祉学』3(1), 35-48.</p>		

## ゼミナール概要

キーワード：ソーシャルワーカー・クライアント関係、アセスメントプロセス、ソーシャルワークスキル、PSW

**私のこと：** 高校生のときにPSWを志して大学入学したものの、あまりにもおもしろい大学生活を満喫し、4年生になったときに、このまま「精神障害者の前には出ることができない！」と気づき（社会福祉士試験も、申し込み締め切り期日を知らずに受験できませんでした）、大学院に進学しました。「一生分の勉強した！」と、修了後、精神科病院のPSWになりました。その後、地域生活支援センターを立ち上げて施設長をつとめ、啓発のための市民グループも立ち上げました。この10年のPSW経験の中で、私はPSWを「世界で一番おもしろい仕事」だと思ってきました。

精神保健福祉領域は、研究も、実践も、質量ともに乏しいです。「change agent」であるソーシャルワーカーも、この現実を変えていく役割を担う一員だと思っています。それなのに、PSWに対する批判もたくさん聞こえてきます。PSWの専門性の向上、スキルアップは、喫緊の課題だと感じています。そこで今、ソーシャルワークプロセスの「アセスメント」に焦点を絞って研究しています。

- ゼミの目的**
- ① 自分を知り、「なりたい自分」になるために、ゼミメンバーと共に成長します。
  - ② 精神科病院のイベントに参画し、患者さんへのアプローチを実践します。
  - ③ 卒論作成を通して、自分の疑問を言葉にし、探求し、答えを見つけるプロセスを身に付けます。

### 授業内容：

ゼミ活動の内容・方法は、皆で相談して決めていきたいと思っています。ただ、現場にでかけて精神障害当事者と出会い関わること、学びをゼミ仲間と共有することは、取り入れていきたいと思っています。

#### 3年生

- ・精神保健福祉領域の実践現場への見学や、ボランティア活動に主体的に取り組み、さまざまな課題を見出し考えます。各自、精神障害者が利用する社会資源とコンタクトを取り、授業時間外に活動します。ゼミの中では、その活動報告をし、皆で学びを共有します。
- ・夏休みには、卒業研究につながるレビュー論文を作成します。
- ・南知多病院の入院患者さんを対象にしたイベントに企画段階から参画します。歴代ゼミ生は、クリスマス会で、社会的入院患者さんの退院に対するモチベーションを上げるきっかけになるようなお芝居やクイズ大会を企画・運営しています。
- ・ゼミ合宿へ行きます。

#### 4年生

- ・夏休みまでに卒業論文を提出します。
- ・後期は国家試験対策を全員で行います。

## 担当教員からのメッセージ



お互いに相手を大切にできるゼミを目指しましょう。ゼミの全てのメンバーにとって安心できる場所にするため、安心を提供する責任をお互いに担っていききたいと思います。

一人ひとりが個性を發揮し、それぞれのタレントを生かしているようなゼミにしたいと思います。そんなゼミ創りに貢献していただける人を希望します。

エントリーシートには、①ソーシャルワークに関心をもった理由、②現段階での希望進路とその理由、③「がんばったなあ、自分」と思える経験とそこから学んだこと、④あなたご自身のセールスポイントを記載してください。